

FRANCHET のことである。 *Saussurea tunglingensis* CHEN, *Saussurea hsiaowutaishanensis* CHEN, *Saussurea peipingensis* CHEN, *Carduus hsiaowutaishanensis* CHEN 等の新名がある。

(北村四郎)

林 鎔氏：中國菊屬植物之研究 (Yong LING: Note sur quelques *Chrysanthemum* de la Chine in Contributions from the Institute of Botany National Academy of Peiping Vol. III (1935) p. 459—483).

本論文は家菊の起原は未だ発見されてゐないといふ小生の論文を引用され支那の菊を分類したもので、分類の体系は小生の体系を採用してゐる。従來家菊の原種と考へられたもの即ち *Chrysanthemum morifolium* var. とか *sinense* var. とかを改めて研究しこれを種に引き上げてゐる。 *Chrysanthemum Maximowiczianum*, *C. vestitum* (小生は本年 *C. vestitum* KITAMURA を出したがこの論文が後程入手出来た。小生のは遅れてゐるから癢すべきである)。この外 *C. mongolicum* (蒙古), *C. argyrophyllum* (河南) *C. brachyglossum* (四川), *C. hwangshanense* (安徽), *C. Ledebourianum*, comb. nov. *C. alashanense* comb. nov. 等がある。家菊の原種は未だ不明であるといふ。(北村四郎)

緒方正資氏：日本羊齒類圖集 第七輯 M. OGATA: Icones Filicum Japoniae. Vol. VII. (July 20, 1936).

本種には次の 50 種が今までのものと同じ形式で圖説してある。

- | | | |
|----------------|------------------|-------------------|
| 301. ミモチシダ | 302. アミオホバコシダ | 303. ホコガタシダ |
| 304. フササジラン | 305. オホバムニンシダ | 306. アリサンスダレシダ |
| 307. ヒロハナヨシダ | 308. クハレシダ | 309. シロヤマシダ |
| 310. ワウレンシダモドキ | 311. ナチクジヤク | 312. キンマウキノデ |
| 313. オホカウモリシダ | 314. リヤウメンシダ | 315. ハルランシダ |
| 316. ムニンサジラン | 317. サジラン | 318. アリサンヘラシダ |
| 319. ヒメサジラン | 320. セイタカイハヤナギシダ | 321. イハヤナギシダ |
| 322. カニクサ | 323. タイワンカニクサ | 324. イリオモチシヤミセンヅル |
| 325. ムカゴシダ | 326. チャイロエビガラシダ | 327. ホランノブ |
| 328. ツルシダ | 329. ヒメエボシシダ | 330. タイワンクリハラン |
| 331. ヘビノキシノブ | 332. ダイブウラボシ | 333. タイワンウラボシ |
| 334. カナワラビ | 335. メヤブソテツ | 336. タイワンイタチシダ |
| 337. ホザキカナワラビ | 338. オニヤブソテツ | 339. ヒロハヤブソテツ |
| 340. アリサンフジシダ | 341. ハカタシダ | 342. ジフモンシダ |

343. ヤヘヤマトラノヲ 344. ナガバノキノモトサウ 345. フサシダ
 346. カンザシワラビ 347. ウスバワラビ 348. カンシノブホラゴケ
 349. イトシシラン 350. オホカグマ

學名その他氣のついたことを列挙してみると

Pl. 302. は *Antrophyum reticulatum* KAULF. ではなくて *A. Grevillei* BALF. である。

Pl. 303. はむしろ奇形である。ホコガタシダの葉はよく先端が叉状に分岐はするが決して正常の型ではない。

Pl. 310. 正しい學名は *Athyrium anisopterum* CHRIST. そしてこれは *A. macrocarpum* Bl. と合一すべきものであらう。*Dryopteris cystopteroides* KODAMA はヒメハシゴシダのことである。

Pl. 312. これは小笠原の *Dryopteris lepigera* O. KTZE. ではなくて臺灣、琉球、四國、本州にある *D. subtripinnata* O. KTZE. モクバのやうに思はれる。

Pl. 314. リヤウメンシダの學名は *Rumohra Standishii* CHING である。*Dryopteris viridescens* O. KTZE. はナガバノイタチシダのことである。

Pl. 340. はアリサンフジシダではなくて *Polystichum stenphyllum* CHRIST = ヒタカシダである。

世界に稀にみる立派な圖譜であるから今少し責任を持つて検定していただきたい。

(田川基二)

秦仁昌氏：中國印度及び其の隣邦産ヲシダ屬の正誤研究 R. C. CHING :
 A review of the Chinese and Sikkim-Himalayan *Dryopteris* with refernce to
 some species from neighbouring regions. [Bull. Fan Memor. Inst. Biol. 6 :
 237—352 (March 11, 1936)]

ヲシダ屬 *Dryopteris* は今日一般に行はれてゐる意味ではすいぶん大きな屬で雑多な分子が澤山にはいつてゐる。秦氏はすでにこの屬からウサギシダ屬 *Gymnocarpium*, *Stegnogramma*, ミゾシダ屬 *Leptogramma*, キンマウワラビ屬 *Hypodematium*, カナワラビ屬 *Rumohra* 等を抜き出して詳説せられたが、本編はヒメシダを模式種とする一群を抜き出してこれをヒメシダ屬 *Thelypteris* にまとめ、印度以東に産する 68 種につき詳しく解説して居られる。

Thelypteris は 1762 年に SCHMIDEL が設立して以來全く忘れられ、近年は *Dryopteris* 中の *Lastrea* 亞屬として認められてゐるものに相當する。外部内部の構造共にヲシダの一群とは格段の差のあるもので、むしろメシダ屬 *Athyrium* に近縁のものであら